

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

# 未来に...

～地図に残る施設に携わりたい～

利根導水路施設は、利根川中流域の埼玉県、群馬県へ農業用水を供給するとともに、利根川上流ダム群で開発された水を、東京都、埼玉県及び群馬県の水道用水並びに東京都及び埼玉県へ工業用水を供給している施設である。昭和43年の管理開始以来、用水の安定供給を通じて農業の発展と首都圏の産業・生活基盤を支える重要な役割を担っている。

本号では、“土木女子”鹿股さんを通して、水路系事務所で働く土木職員の仕事を紹介する。

## 水路系事務所の土木職として

水路系事務所での土木職の仕事は、用水路・取水堰などの施設管理、配水管理、防災業務、施設の建設・改築の工事監督など多岐にわたる。鹿股さんもそれらを経験してきた一人であるが、華奢な体と優しい物腰で、工事現場で働いていることに意外な印象を受ける。学生時代に「家の設計をしたい」とぼんやりとした将来の夢を抱き、高等専門学校への進学。建設環境工学を学ぶ中で水資源機構の存在を知り、「家よりも大きな施



## Profile

利根導水総合事業所 管理課

## 鹿股 朋生 Tomoyo Kanomata

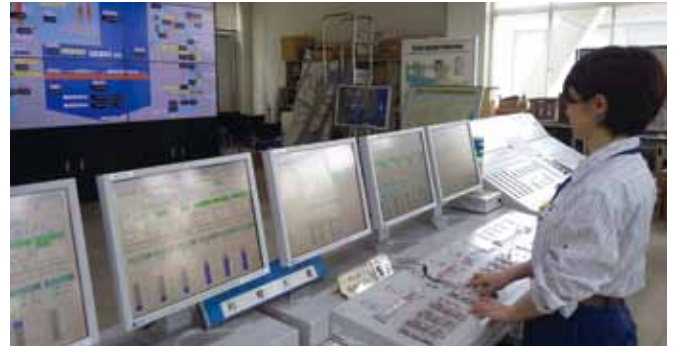
平成18年入社。筑後川下流総合管理所、豊川用水総合事業部、群馬用水管理事務所、現職と水路系事務所の土木職として、施設管理・調査設計業務・予算管理などに従事。平成26年4月より現職。

設...地図に残るような施設に携わりたい。」と思うようになったという。

現在の事務所を含めて勤務した4カ所はいずれも水路系事務所。水路施設は管理エリアも広範囲にわたるため、施設の巡視に半日以上かかることも少なくない。また、緊急時や訓練では、油漏れを吸収するオイルフェンスの組み立てや設置、土を袋につめて土嚢をつくり水路脇に積んだり、力仕事もあるという。「大変ですが、これだけ大きな施設に自分が携われていることを体で感じられます！」現職では、「予算管理」の担当となり、2年目を迎える。

## 常に気が抜けない「予算管理」

「予算って聞くと事務職の仕事だと思いませんか？私はそう思っていました。」初めてメインの担当者として任された「予算管理」の業務。「事務費については事務の担当者がありますが、維持管理や施設に関する予算(管理費)については、私たち技術職が担当します。」鹿股さんは続ける。「利根導水総合事業所には、出先事



務所があり、事務所ごとに予算担当がおります。私は、利根大堰・利根導水路の管理関係の予算を担当しています。」現場中心の仕事から、毎日数字と睨めっこする日々となった。今年度の予算が計画的に使われているか、工事の発注状況を常にチェックし、遅れている工事等があれば担当者へ発破をかける。計画通り予算が執行できるよう、また、計画外の事態にも対応できるよう、常に気が抜けないという。「億単位のお金をお預かりして円単位で執行していきます。時には、工事担当者から予算の相談を受けお金のやり繰りを考えたり・・・お小遣い帳もつけたことがない私にとっては緊張の連続です。」と苦笑い。また、専門外の業務の予算管理で苦戦することもあるという。「電気や機械の業務はまだまだ知らないことも多く、何回も聞いてしまうこともあります。質問を繰り返さないよう、時間があればなるべく現地で実際に確認し教えてもらうようにしています。」そんな彼女の誠実さと一生懸命さもあり、「安心して任せられる」とペアで仕事を上司の信頼も厚い。「みなさんの『施設を少しでも良くしたい』、『施設管理を改善したい』という熱い思いを聞くと、私もなんとか力になりたい、頑張らなきゃと思っちゃいます！」と言葉に力を込める。工事現場に直接出向くことは減ったが、彼女は予算という立場で現場を想い、見つめている。

ろは、色々とチャレンジできること！」と断言する彼女。「若手でも仕事を任せてもらえるし、困ったときは上司や先輩方、そして女性職員の仲間が相談に乗ってくれるので、安心して頑張っています！」とのこと。「水路系の事務所ばかりでしたので、ダムの建設や管理も経験して、よりスキルアップしたいですね。」と意気込みを見せる。

「実は新しい家族が来年増える予定なんです・・・」とはにかみ笑顔を見せる彼女。身重の体を心配し、課内では夜間などの防災業務の軽減などサポートをしてくれているとのこと。「仕事と育児の両立は不安も沢山ありますが、育児休暇や時間短縮勤務も整備されているので頑張ってみようと思っています。いつか子供に地図を見せて『ママが働いているのはここだよ！』って胸を張って言えるよう、これからも頑張っ頑張っ働いていきたいです！」そんな彼女を、心から応援したい。

## 女性技術職員のネットワークで不安を払拭

機構に勤務する女性職員は65名、そのうち33名が技術職として日々の業務に邁進している。全体に比べて女性職員はまだまだ少なく、かつ全国の事務所に配属されているため、一緒に仕事をすることが少ないのが現状である。そこで、技術職の女性職員の友好と情報交換のため年に一度旅行会を行っているという。「女性同士プライベートの悩み相談などもします。経験豊富な先輩方のお話は、とても参考になります。あと、ここで知り合ったことで、仕事で悩んだときに気軽に相談でき心強いです。」少ない女性職員だからこそ、つながりを大切に支え合っているようだ。

入社して10年経過した今、「水資源機構の良いとこ



「着物が大好き」という彼女は、着付けの師範の看板を持つ腕前。お気に入りの着物を着て、旅行に行くこともあるとか。「普段は作業着だからでしょうか(笑)。きれいな柄でしゃなりしゃなりと歩くと心が癒やされます☆」と、オフはオシャレを心がける素敵女子でした。

## 利根大堰サケ遡上・採卵見学会 11月14日(土)は利根大堰へ!

利根大堰自然の観察室でサケの遡上する様子を間近に見たり、サケの生態の紹介や卵をとる様子も見学いただけます。クイズ大会や地元B級グルメの出店も!是非お越しください。(詳細は決まりしだいホームページに掲載)

